

「東山中駅伝大会」

副会長 重永憲明

ウィンタースポーツと言えば昔はスキーだったが、最近は毎週のようにマラソン大会や駅伝大会が開催される。駅伝がこんなに人気があるのは日本だけだ。正月の箱根駅伝に至っては朝の7時から昼の2時過ぎまでぶっ通しで2日間中継する。テレビカメラも往復200キロ以上走っていることになる。これは大変な番組であるけど、走っている学生たちはもっと苦しそうな顔をしている。八百長や賭博とは全く無縁、必死な形相で襷をつなぐ学生の姿に、プロスポーツにはない清々しさを感じる。

第28回東山中学校駅伝大会に同窓会チームが出場した。文化祭も終わった昨年秋、同窓会世話人会で次は駅伝大会に出場しようとどなたかが発案したときには、走る人を集められるかしらとまず心配した。40、50にもなればご自分の体を良く知っているから無理をしないと思うが、体力と気力が一致しないことが多いのでその点が一番悩ましい。その大事なメンバー集めからエントリーの手続き、オーダーを決める監督役まですべて15期の長沢さんに引き受けていただいた。

選手団は、17期の田村秀子さん、16期の吉川公子さん、15期の長沢美奈子さん、関口恭子さん、杉山美紗緒さん、小田久子さん、吉岡健男さん、芝田重実さん、そして5期重永の9名。お気づきのように女性陣が6名、まさに女性と15期に支えられたチームでした。

コースは学校のグラウンドを出発し自衛隊の敷地をぐるりと回る周回コースで、1区間3.6キロ、それを5周するのだが最低5名、最高20名で襷をつなぐという少し変わったルールだ。出場選手数によって様々な組み合わせが考えられ監督の手腕が発揮される。

若い頃はともかく久しぶりに走られる方が多いからどのくらいの距離を走ることができるかすら分からない。まかせろ、と言う人に限って途中で歩き始めたり、全然だめと手をひらひらさせていた人が何人も抜いたりする。監督はさぞ悩まれたことと思う。難しい1区は吉川さんが通しで走られた。2区の前半1.8キロを田村さん、後半の1.8キロは長沢さんが担当された。3区は4人で0.9キロずつ仲良く分け合った。

1番手は吉岡さん、2番手は関口さん、3番手は杉山さん、4番手は芝田さん。4区の前半は長沢さん、2回目の登場で今度も1.8キロを走られた。2番手0.9キロは関口さんの再登場、3番手0.9キロは小田さん。アンカーは重永が襷を受けた。ここでコースを簡単に紹介する。グラウンドの裏門を出て左に曲がると急な下りから登り坂。元気な前半はともかく帰りはこの坂が難所。学校の正門前を通過して自衛隊を目指す。突き当たりを右折し、東山小学校の前を今度は左折する。世田谷公園と自衛隊中央病院の間の道を直進し、養護学校を左折、三宿病院前の細いクランクを抜け再び防衛省の宿舎を右折して学校に戻る。アップダウン有り、クランクありしかも歩道を走るのが原則だから駅伝のコースとしてはなかなか難しい。都内でも上位に入る東山中陸上部の選手になると1周を12分で走るが、我が同窓会チームは平均して20分というペース、それでも最下位にはならなかった。途中中継点、交差点などでPTAのお母さん方が交通整理や救護・応援をしていただけたので気分は箱根駅伝だ、気持ちよく走ることができた。

同窓会では伏原会長、石井副会長、佐野さんをはじめとした15期の方々、声を限りに応援していただいた、ありがとうございました。

終わってからグラウンドで中学生と一緒に豚汁をすすり、近くのスポーツジムのシャワーで汗を流した後反省会に移ったのは言うまでもない。来年もと全員で氣勢をあげた。